

愛・地球博理念継承・発展プロジェクト
モリゾー・キッコロ環境エクスカーション
 開催概要

世界初の「環境万博」を大成功させた愛知。その理念を引き継いでいくために、当地域の環境を考えるワークショップを通年で開催する。

万博1周年目のテーマは「海と森をつなぐもの」。愛・地球博のテーマを「環境」に決定させる要因となった海上の森。名古屋市のゴミ埋め立て場計画を断念させ、全国でも画期的なゴミ分別運動にまで発展させる契機となった藤前干潟。当地の「環境」にとってメモリアルなこの2つの場所は、くしくも名古屋市を流れる、矢田川・庄内川という水流を通してつながっている。

エクスカーションでは「うみ・まち・かわ・もりワークショップ」として藤前干潟、海上の森と、その中間点をピックアップ。親子を中心に参加者を募集し、専門家のレクチャー、ワークショップなどを通じ、現地でその地域の環境、地域文化などを総合的に学習する。全ワークショップの終了後、各エクスカーション参加者の報告を含む総合シンポジウムを行い、都市に住む私たちが忘れがちな自然の大切さを再認識する。

なお付帯事業として、東海地方ゆかりの絵画作家団体「風景の会」が藤前干潟から水流をたどって海上の森まで取材し、新作絵画を制作。万博1周年記念の展覧会で作品を発表する。

- 事業名 モリゾー・キッコロ環境エクスカーション
- 開催時期 2006年7月23日、8月5日、19日、26日、10月1日（全5回）
- 会場 藤前干潟、堀川、庄内川・矢田川～吉田川周辺、海上の森、アスナルホール（金山）
- 対象 愛知・岐阜・三重県の小学校4～6年40人とその保護者（1名）（紙面などで一般募集。参加無料）
- 主催 モリゾー・キッコロ環境エクスカーション実行委員会
 （財団法人2005年日本国際博覧会協会、愛知県、名古屋市、中日新聞社ほか）
- 後援 環境省 中部地方環境事務所、経済産業省 中部経済産業局、環境パートナーシップ・CLUB、
 NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム（いずれも申請予定）
- 連携協力 なごや環境大学
- 実施プラン *各事業1回参加につき、エコポイント加算

1) うみ・まち・かわ・もり ワークショップ

7月23日(日) 「うみ編：藤前干潟」（協力：NPO法人 藤前干潟を守る会）理事長：辻淳夫（日本湿地ネットワーク代表委員）＝日本最大級の渡り鳥の渡来地であり2002年11月ラムサール登録地に認定された藤前干潟でのフィールドワーク。05年3月にオープンした「藤前活動センター（同市港区藤前）」も活用

8月5日(土) 「まち編：堀川」（協力：名古屋堀川ライオンズクラブ）会長：渡辺洋治
***終了** ＝「堀川を清流に！」をテーマに活動を続ける同クラブの協力を得て川の浄化作用などについて学ぶ

8月19日(土) 「かわ編：庄内川・～矢田川～吉田川」（協力：名古屋市水辺研究会）代表：國村恵子
***終了** ＝「都市における水辺の復権」をテーマに活動する同研究会と、水辺の動植物の調査などを行う。

8月26日(土) 「もり編：海上の森」（協力：海上の森の会）曾我部行子
 ＝愛・地球博を環境万博とする契機となった「海上の森」で、「里山」について学ぶ。

2) 総合シンポジウム*詳細は別紙

10月1日(日) 午後1時～ 「総合シンポジウム」（金山・アスナルホール）
 ・講演 島村菜津氏（ノンフィクション作家）
 ・各エクスカーション報告会（各講師＋参加児童）
 ・パネルディスカッション

- 付帯事業 ・愛・地球博1周年記念「風景の会絵画展」（出品作品数約80点）
 【名古屋展】7月26日～8月1日・松坂屋本店南館美術画廊 ***終了**
 【豊川展】 8月15日～8月27日・豊川市桜ヶ丘ミュージアム

■問い合わせ 中日新聞社文化事業部内「環境エクスカーション事務局」（担当：岡本・佐藤）＝電話 052-221-0729